

(代表質問)

質問日	令和7年3月7日(金)			質問方式	分割方式		
質問順位	2	会派名	公明党	議席番号	24	氏名	幸田 恵里子
表 題	質 問 内 容						答弁者の職名
1 10年後の理想の姿の実現に向けて	中野市長は新年の挨拶で、2025年には、市の最上位計画である総合計画のうち、2034年度までの10年間を計画期間とした新たな基本計画の策定に合わせ、こども・若者・子育て支援や教育、中山間地域の振興、財政運営など2025年度を始期とする個別計画がスタートする、これらに基づき、実効性のある政策を力強く推進したいと考え、7つの政策分野において「まち」「ひと」「しごと」の創生に向けた取組を進めると言われた。 そこで、以下伺う。 (1) 次の10年に向けた実効性のある基本計画としていくためには、何を重点に置き進めていくのか見解を伺う。 (2) 市長公室が設置されることになるが、その目的について伺う。						中野市長
2 産業経済の理想の姿について	浜松市総合計画第2期基本計画における分野別計画「産業経済」の取組の方向性に、ものづくり産業の本市の取組を基礎として、将来を見据え、時代の変化を意識した産業支援・人材獲得、育成支援に取り組むとあるが、以下伺う。 (1) 時代の変化をどのように捉え、本市ならではの、将来のものづくり産業の行方をどのように考えているのか伺う。 (2) 多様な人材が活躍するためにも、本市で働く若者のU I Jターンを促進していかなければならない中、令和6年度若年層アンケート調査では、79.1%が将来浜松に住みたいと回答した。しかし、市内に就職先があるとの回答は41%に留まった。 そこで、若者のU I Jターン就職を促進するための取組について伺う。 (3) 労働政策課を新設する意義について伺う。						中野市長 北嶋産業部長 〃
3 こども・教育の理想の姿について	浜松市総合計画第2期基本計画における分野別計画「こども・教育」の理想の姿に、地域の宝として愛情を注がれたこどもたちは、浜松に誇りを持ち、世界を舞台に活躍しているとあり、この10年間の取組の方向性は、社会全体でこどもの育ちや子育てを支え、こどもや若者、子育て世代の将来不安を払拭し、みんなが幸福を実感できる社会を目指すであった。近年、発達に課題を抱えるこども・若者や、貧困など家庭環境に困難を抱えるこどもへの支援ニーズは高い状況にある。						

※二重線は、分割方式を選択した場合の分割箇所を示すものです。

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
	そこで、以下伺う。 (1) こども・子育て当事者のライフステージに応じた切れ目のない支援とあるが、発達の面で支援を要すると判断された親子への、切れ目のない支援について、現状と課題、今後の取組を伺う。 (2) 学習支援事業について、これまでの効果と今後の取組について伺う。 (3) 多様なニーズに対応した学びや支援の充実を目指した教育環境について、以下伺う。 ア 今後も増加が予想される発達支援学級を担当する教員の学級経営、特性に合った指導法などの専門性向上への取組と今後の展開を伺う。 イ 通常の学級に在籍する支援を必要とする児童生徒への支援について、専門職である作業療法士や言語聴覚士との連携を含めた取組と今後の展開を伺う。	吉積こども家庭部長 〃 宮崎教育長
4 安全・安心・快適な理想の姿について	浜松市総合計画第2期基本計画では「健全な水循環に貢献する強靱で安全・安心な上下水道の経営」として、5つの政策が定められている。現在、上下水道部では、浜松市総合計画第2期基本計画における分野別計画「安全・安心・快適」と整合が図られた「浜松市上下水道基本計画」を策定しており、昨年末のパブリックコメントには様々なご意見があったと思うが、何を一番重点に置いた計画を立てられるのか伺う。	内藤水道事業及び下水道事業管理者
5 健康・福祉の理想の姿について (健康)	(1) こどもへの切れ目のない支援体制として、乳幼児健診を実施しているが、本市の取組について、以下伺う。 ア 支援の必要なこどもを早期発見し、早期療育に結びつける1歳6か月児健康診査を実施されているが、支援の必要な親子への保健師の関わりと、他機関との連携について伺う。 イ 弱視や目の異常を早期発見し、目や視力の健全な成長・発達のために、3歳児健康診査において眼科屈折検査を実施することが必要だと考える。しかし、本市は個別健診・集団健診と区によって違いがある中、眼科屈折検査がどのくらい実施されているのか、また、すべてのこどもが平等に受けることが切れ目のない支援に結びつくと考える中で、眼科屈折検査の効果的な実施について伺う。 (2) 浜松市総合計画第2期基本計画における分野別計画「健康・福祉」の理想の姿に、病気の発症や重症化を予防することにより、健康で自分らしく充実した生活を送っている市民の姿が挙げられている。 そこで、带状疱疹ワクチンの取組について、以下伺う。	平野医療担当部長

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
6 健康・福祉の理想の姿について (福祉)	ア 本年度から50歳以上の市民を対象に公費助成が開始されたが、改めて重症化を防ぐ带状疱疹ワクチン接種の意義について、また、接種状況と今後の周知方法を伺う。 イ 2025年度から定期接種化になり、対象者の自己負担が今まで以上に軽減されることで接種がより進むと思うが、その見解を伺う。 浜松市総合計画第2期基本計画における分野別計画「健康・福祉」の取組の方向性に、地域住民の複雑化・複合化したニーズに対応する包括的な支援体制を整備し、年齢や障がいの有無などに関わらず、誰もが住み慣れた地域で生活できるよう、切れ目のない支援に取り組むとの方向性が出されたが、福祉的な寄り添う支援体制について以下伺う。 (1) コミュニティソーシャルワーカーが地域の多様化した数多くの課題解決に向けて支援しているが、その現状と今後の取組について伺う。 (2) 単身高齢者も増える中、地域の見守り役である民生委員児童委員の存在はとても助かっている。一方、民生委員の担い手がなかなか見つからないことが地域の課題となっており、業務の負担が大きいことも要因になっていると考える。 そこで、民生委員の業務負担の軽減策について伺う。 (3) 障がいのある人の社会参加を促進し、生活の質の向上を図るための福祉サービスや補装具の利活用の支援と、社会生活等のリハビリテーションの現状と取組内容について伺う。	小松健康福祉部長
7 地方自治の理想の姿について	(1) 浜松市総合計画第2期基本計画における分野別計画「地方自治」に、持続可能な行政運営を推進し、市民が幸せを感じられる自治体になる理想の姿に向けて、職員全体の資質向上が図られ、市民満足度の高い効率的かつ効果的な行政運営が必要と挙げられているが、以下伺う。 ア どのような職員を育成することで、市民の満足度の高い行政運営につながるのか、市長の考えを伺う。 イ 市職員の人手不足の現状について伺う。また、スキルのある専門職など、経験のある再任用職員がどのように活かされているのか、処遇改善に向けた今後の取組も含めて伺う。 (2) デジタルを活用した市民サービスとして、マイナンバーを利用した情報連携について、以下伺う。 ア 会計検査院の調査報告を受け、本市が実施した独自	中野市長 田中総務部長 水谷デジタル・スマートシティ推進部長

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
	調査の結果とその原因について伺う。 イ その後の改善への取組と、本市で考えられる市民の利便性と行政事務の効率化に向けた、マイナンバーを活用した情報連携の今後の見通しについて伺う。 (3) 共生社会の実現に向けた意識醸成と、外国人市民の命を守る防災対策について、以下伺う。 ア 人口減少の中、労働者不足も心配されているが、本市の外国人市民数及び在留資格等の動向を伺う。 イ 共生社会実現に向けた浜松市民の意識醸成や理解促進への現状と課題、今後の取組について伺う。 ウ 定住化が進む中、外国人市民の安心安全な暮らしに向けた防災対策について伺う。	山名副市長